

2 各部の基本納まり図

2-2 上下接合部

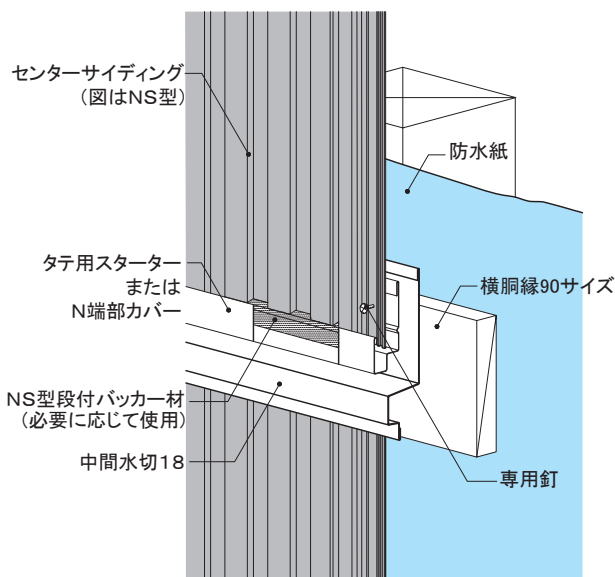
- 中間水切、タテ用スターター、(N)端部カバー、見切縁は型によって表のように異なります。水平に十分留意して、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。

表 部材の設定

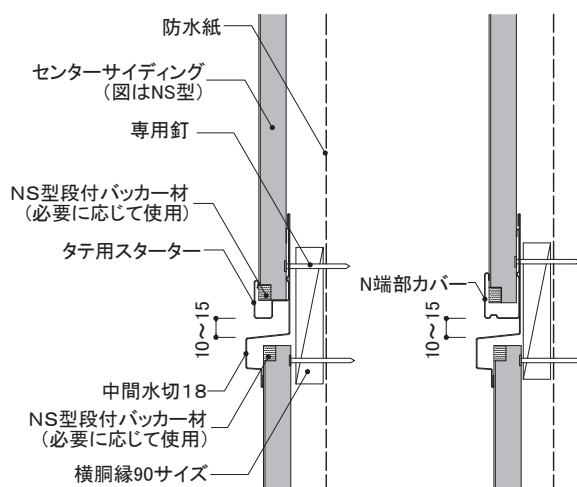
M型、NS型、ST型、 F型、FN型、A型	中間水切18	(N)端部カバー
--------------------------	--------	----------

※N端部カバー・端部カバー以外の見切縁は、水抜き穴(φ10mm×300mm間隔)を現場加工します。

M型、NS型、ST型、FN型	中間水切18	タテ用スターター
----------------	--------	----------



アルミ端部カバーを使用すると耐火構造認定の対象外となるのでご注意ください。



2-3 左右接合部

1) 基本納まり

横張り施工は目地受け材と目地カバーによる接合、縦張り施工は本体実による嵌合が標準です。

① 横張りの場合

- S目地鋼板受け18、目地鋼板受けを、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で1m以下の間隔で胴縁に留め付けます。
- S目地鋼板受け18、目地鋼板受けの上下端部は継ぎ手加工部に差し込んで継ぎます。
- 本体施工後、目地カバーや段目地などを受け材に差し込みます。浮き上がり防止のため、十分に押さえて固定します。
- 土台部はヨコ用スターター勝ちとし、目地カバーの差し込み部のヨコ用スターターとぶつかる部分を10×15mm程度切り落として差し込みます。

